教育実習等事前指導における情報モラル教材の開発について
—SNS 投稿者の特定を通じて—

松波紀幸*1・福島健介*2
Email: noriyukimatsunami@gmail.com

*1：帝京大学教職センター
*2：帝京大学教育学部初等教育学科

◎Key Words　SNS，教育実習，事前指導，情報モラル，個人情報

1.　はじめに

本学に限らず、教職課程を設置する大学では、学生らが教育実習中等において知りえた内容を SNS に投稿することを禁じている。また、受け入れ側の教育委員会においても、その投稿禁止を明示している場合がある(1)。しかしながら、その禁止理由や危険性ついては、大学の科目である教育実習事前事後指導や、教育実習直前のガイダンスなどにおいて補充指導されない限り、表面的な理解に留まる可能性が否定できない。また、文部科学省(2017)(2)は、高校生に対する調査の中で「基本的な情報モラルは理解しているが、情報の発信・伝達の際に、他者の権利（肖像権や著作権）を踏まえて適切に対処することや、不正請求のメールやサイト等の対処に課題がある」としており、発信に課題を見出している。よって、高校生で課題であったことは、学生時代に特別な機会を得ない限り、引き続きの課題となる可能性が高い。これにより、教育実習をはじめとして、様々な場面で学生による安易な投稿に結び付く可能性があるのではないかと考えた。

2.　研究の目的

そこで、本稿では、指導者が web 上に投稿された内容から容易に投稿者の個人を特定しうることについて、学生らに教示することで、その危険性についてより深い理解につながるかを検証する。

3.　実践について

3.1　実践対象等について

本実践は、2 大学における以下の学生を対象に実施した。

A 大学(主として大学 3 年生)
　時期　2018 年 11 月　中高教職課程　n=25
B 大学(大学(ア)3 年生、(イ)2 年生、(ウ)4 年生)
　時期
(ア)2018 年 10 月 31 日　幼稚園教職課程　n=58
(イ)2018 年 12 月 20 日　保育士養成課程　n=61
(ウ)2019 年　2 月 5 日　主として小学校教職課程　n=55

3.2　講義方法について

A 大学では、教示、グループワーク、発表の 3 単位時間の実践を行った。B 大学においては、教示のみの 1 単位時間の実践を行った。

3.3　教材の構成について

教示用の教材構成は、「1　Social media の概要、2　Social media の光、3　Social media の闇、4　Social media 自衛と対策」で構成した。特に「3」の部分については、西野(2015)(3)を援用し、実際に Twitter で公開されている内容をもとに「リアリティアのある話」を意識し、作成した。この教示内容をもとに、A 大学ではさらに、グループ毎に「特定班」となり、公開されている SNS 情報をもとに個人の特定を可能な範囲で実施した。また、その後、調査内容について発表し、受講者内で共有した。なお、調査内容等については、その取扱いに十分留意するように事前、事後ともに学生らに指導をした。

4.　方法

A 大学では、リアリティアのある話を意識し、Web 上の実際の投稿を用いた点について、学生らから以下のように意見を聞いた。

「質問…今回、SNS に関わる講義で架空の素材ではなく、実際に Web 上に公開されている内容を基に授業が展開されました。また、その後、実際に自分たちで実在の人物についてどの程度、個人が特定されていくかを確認しました。このことについて聞きます。」

また、B 大学では、総務省の調査(4)をもとに、学生らの SNS 利用状況について確認した。さらに、「本講を受講して感じたこと考えたこと」を尋ねた。

5.　結果と考察

5.1　A 大学の調査から

リアリティを重視し、実際の投稿を用いた点については、以下のような結果となった。

表 1 実際の投稿を用いることに対する学生らの意識

・実在の人物で、教示や演習が行われた方が自身の学びが充実する	23 名
・どちらでも同程度自身の学びが充実する	2 名

また、それぞれ理由について確認したところ次のような回答を得た。どちらでも良いと回答した 2 名は、「学ぶ方法を知るためなのでどちらでも構わないと思うから。」「過程などが同じなら実在でも架空でもいいと思う」と回答した。一方、実在の人物を取り扱う方がよいと回答した学生らは、「実際に存在する人物を調べることでより SNS の怖さを実感することができると思ったから。」「自分もしっかり対策しなくてはと、実際の人で実施することで感じられるからです。」「現実味が増し、問題意識が高まるから。」等が挙げられた。さらに、実際に自分たちで

調べるグループワークについて、「実際に行うことで体験的な学習の学びができた」などが挙げられていた。

5.2　B 大学の調査から

教示内容では、SNS が家族とつながっていることから、より広範に投稿者の情報が引き出せる内容を扱うことから、自身の SNS が家族とつながっているか、さらには複数の SNS でアカウント連携しているかについても確認をした。結果、74.4%の学生が家族とつながっていた。また、アカウント連携については、53.4%の学生が実施していた。

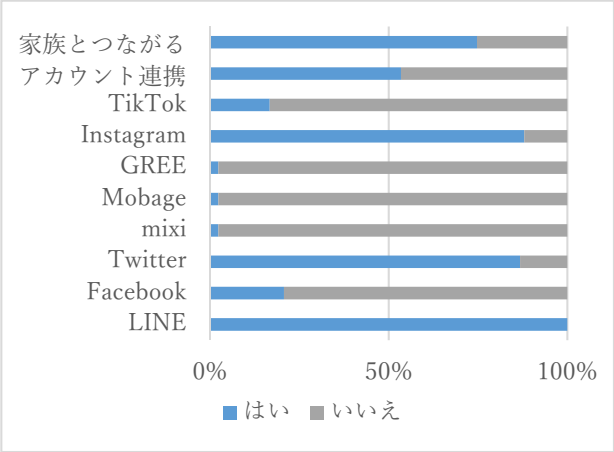

図 1 学生らの SNS 利用状況(n=174)

このほか、自由記述においては、例えば以下のような記述が見られた。「少しの情報を寄せ集めることでその人のプロフィールが出来上がることが面白いと思った。今回のように大学生相手でなく、小学生を相手にしても個人が特定されてしまうことは、具体的に示してよいと思った。ツイッターやインスタは個人が特定できるように名前を載せることはしないようにしていたけれど今日、改めて気を付けようと思った。実名を挙げることで効果的であることは間違いないと思う。実際に母校とかを書いている人は今日の講義を受けて危機感をもったと思う。だからツイッターでそういう情報を挙げている友達に今回の講義を通して変化があるかどうか見てみたいと思う。」「自分は日ごろから結構 SNS を利用しているので今回、ネットサーフィンでここまでの個人情報を知ることができるとわかり、恐怖を感じました。個人の名前が出されることで日ごろは割と他人事だと思っている話も他人事ではなく思えました。また、ツイッターは自分が高校 1 年生頃から利用しているため、自分でも何を書いたか覚えていません。今回の話を聞き、一度身辺調査は確実に行わなければならないと感じました。」「今回のお話を聞いて自分自身気を付けなければならないなと改めて再確認することができた。先生は学生が焦らなければ学生の勝ちといっていましたが、先生の勝ちだと深く思った。実名に関しては日ごろ、修正をかけているので危険には感じる程度だったが、名前を出すことで、自分のように思え、自身ではないのにすごく焦りを感じた。エゴサーチなどして気を付けたい。」

これら、四月から教壇に立つことを直前にした学生らは、今後指導対象となる小学生に対しても有効な教材ではないかと考えていた。また、今回の受講により自身の身辺整理の必要性にまで思いをはせていた。

なお、回答を得た全学生について、文章要約(ベータ版)[5]を元に要約すると、「SNS は利用するけれど、自分の個人情報をこんな風に投稿しないから大丈夫だと思っていました。怖いなと思いました。神経質にならないといけないと思いました。なにげなく投稿していることも 1 つでは特定できなくても過去を振り返ることで、関連しているものを寄せ集めれば情報は簡単に得られるということが分かり、教育実習では個人情報には気を付けなければいけないし気を引き締めないといけないと思いました。アカウントの連携をしていたけれど、危険なことだったのだなと思い、整理をしなくてはならないなと思いました。改めて、SNS の怖さを感じました。個人が特定されてしまうことを投稿してしまったことがあり、気をつけなければならないなと思いました。改めて SNS は怖いなと思いました。私は LINE、インスタ、Twitter のアカウントを持っていて、インスタはよく投稿するので、投稿する内容を考えて投稿しなくてはいけないなと思いました。」となった。

以上、5.1、5.2 により、実際の公開されたデータを用いて投稿者の個人が特定されることを教示することは、学生らにより身近な問題として意識され、投稿の抑制だけでなく、自身の身辺整理も誘発する可能性が示唆された。一方で、教示に用いるデータのうち、氏名情報については、「リアルな教材を使うのは現実味があってよいと思うが、自分の友達の名前がでるとすこし驚くし、かわいそうであるとも感じた。」などの意見も少数ながら見られた。よって、これらは仮名に置き換えて教示することが考えられる。

今後は、学生らがグループワークした資料をもとに、どのように投稿者が特定されていくかの様々なケースを整理したい。これにより、学生らが教育実習生として実習に赴く際の自己点検でなく、将来学生らが教員として児童・生徒らを指導する際の参考資料とすることができると考える。

参考文献

(1) 横浜市教育委員会：平成 30 年度　教育実習サポートガイド(小学校・中学校・義務教育学校・高等学校用) 平成 30 年 4 月, http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/daigakurenkei/support-guide.pdf (accessed2019.5.4)

(2) 文部科学省: 情報活用能力調査（高等学校）調査結果 2017 年 1 月,http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/__icsFiles/afieldfile/2017/01/18/1381046_02_1.pdf (accessed2019.5.4)

(3) 西野真由美:資料 2 多面的・多角的思考力を 育成する道徳授業 (2015), http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/111/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2015/08/11/1360735_2.pdf (accessed2019.5.4)

(4) 総務省: 平成 29 年版情報通信白書 http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc111130.html (accessed2019.5.4)

(5) ユーザーローカル テキストマイニングツール（ https://textmining.userlocal.jp/ ）